

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【田島小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて
(3月)

年度末評価
(2月)

反映

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「漢字」「語彙」「文や文章」 算数「数と計算」「図形」 <指導上の課題> 既習事項の振り返りを十分に行う時間的な余裕がない。児童が定着の十分な内容を自分で把握できていない。	⇒ 授業中に、既習事項を振り返り、その内容を生かして学習するよう指導する。【毎時間】 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプルの活用やデータ活用を通して、一人ひとりに合った学習ができるように指導する。【週に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 課題解決のための資料収集や活用が十分指導できていない。	⇒ 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有する。【毎時間、毎学期】 カリマネデザインマップを意識した授業改善を行う。【毎単元】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月～5月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、情報と情報の関係付けの仕方、図による語句と語句の関係の表し方を理解することに課題がみられた。算数では、数直線上に示された数を分数で表すことに課題がみられた。分数の意味や表し方の理解が不十分であると考えられる。理科では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があるものの知識が十分身に付いていないと考えられる。情報を関連付けて読むことや既習事項の定着を目標とする必要がある。
思考・判断・表現	R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」に対する肯定的な回答の割合は、高い傾向にあるので、今後も、個別最適な学びを進めていく。
	国語では、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がみられた。算数では、分数の加法について数や言葉を用いて表すことに課題がみられた。理科では、植物の発芽の条件について、表現することに課題がみられた。情報や知識を基に自分で考え言葉や文章で表現する力が課題となる。
	R7全国学力・学習状況調査の児童質問「インターネットを使って情報を収集することはできるか」に対する肯定的な回答の割合は、県、国と比べて高いが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」の割合は、低いので、引き続き「じ・し・や・く」の視点で授業づくりを行っていく必要がある。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	学校全体として、毎時間、既習事項を振り返り、その内容を生かして学習することができている。 知識技能の定着のため、ドリルやスタディサプル等を使って、練習問題に取り組んでいるが十分な定着には至っていない。引き続きデータの活用を行い、一人ひとりに合った学習を助言する。	発達段階に応じてルーブリック評価を活用し、学習し振り返りをする事で、自分の学びを調整する力を養う。【学期に1回以上】
思考・判断・表現	B	教科の身に付けさせたい資質・能力を認識して、学びのポイント「じ・し・や・く」の視点をもって、教材研究を行い、授業デザインを行い、実践できていた。児童もこのような学び方に慣れ、興味関心を広げ探究的に学ぶ姿が見られた。2学期以降は、一人一授業公開を行い成果と課題を共有する。 学びの質の向上のため、「カリキュラム・マネジメントデザインマップ」を活用し、授業デザインを見直し、より効果的なICT活用や教員の「教え方」「関わり方」を研修していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	